いろんな役にやりがい

プラウド　大矢将之マネジャー

ドライバー派遣を手掛けるプラウド（石山光博社長、東京都千代田区）のビジネスサポート事業部に所属する大矢将之マネジャー。現在32歳の大矢マネジャーは、平成18年5月に入社。入社前の大学生の頃は、派遣ドライバーとして同社に籍を置いていた。

「大学の講義の空いた時間を活用してアルバイトをしていた」という大矢さんが、同社で初めて担った仕事は、軽自動車による求人誌の配送だった。当時は火曜日と木曜日の週2回、飲食店やコンビニ、駅売店などに求人誌を届けていたという。大学卒業とともに他に就職して同社を一度離れるが、1年後に同社にいた頃の先輩に誘われたことで、入社を決意する。

「誘われたのがきっかけだったが、入社理由は、運転やこの仕事が好きだったから」と振り返る大矢さん。正社員になって最初に携わったのは、神奈川県内での検診車の運転だった。

1年後、千葉県でも検診車の派遣を請け負ったことで、大矢さんが現場のリーダーを任され、検診車10台分の仕事を切り盛りすることになる。自ら検診車を運転する一方で、派遣スタッフの配車を組んでいくという作業も加わった。その後、営業も担当するようになり、新規開拓にも精を出すようになった。

今では、欠員が出た際に乗る程度で、自ら運転することは全体の2割程度に減った。後は、配車と新規開拓を含めた営業がそれぞれ4割を占めるという。

「ある時は白衣を着た検診車の運転者、ある時は企業役員の運転者、そしてある時は、運送会社のドライバーと、いろんな役割を経験できる」と話す。「やることが多くて大変だが、いろんな役が演じられ、見聞が広がるところにやりがいを感じる」と同社の魅力を話す。

入社してすでに8年が過ぎた。「あっという間という感じ」と笑うが、今後について、「拠点を増やし、夢は全国展開」と、明確なビジョンを描いている。

（高田直樹）

言わせて！

「社長を会社であまり見かけないが、日頃から何をしているのか分からない。給与も上がらないし、やりがいを感じない」（大阪府摂津市の運送会社で食品関係を配送する35歳のドライバー）

◇　◇

「細かい作業の仕事が年々増えてきているのに、給料が上がらない。もう少し給料を増やしてくれれば生活面でも助かるので早くあげてほしい」（同市の運送会社で精密機器を配送する41歳のドライバー）

◇　◇

「社長と意見が違って前の会社を辞めてからほぼ1年。今の会社には満足している。前の運送会社は、社長が倉庫事業のほうに力を置こうとしていたときであり、私はそれが嫌だった。トラックに乗りたかった」（大阪ナンバー4ﾄﾝ、40代の男性）

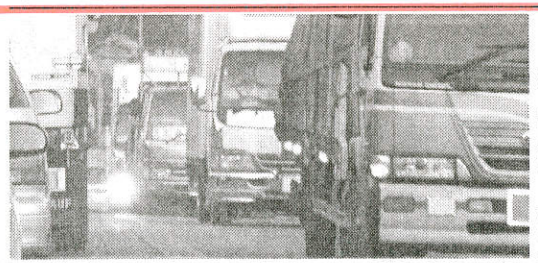
◇　◇

「一番つらい作業は、荷物の積み下ろし。特に夏場は毎年、体調を崩すドライバーが何人も出てくる。とにかく体力的にきつい。労働時間も長く、サービス残業にはうんざりする」（愛知県内のドライバー）

◇　◇

「運送会社は今、サービス過剰になっていると思う。会社が決めたことで、あまり我々ドライバーは文句を言ってはいけないのかも知れないが、荷主や顧客の要望を全部聞いていったらきりがない。翌日配達エリア拡大とか同業者間で競争しているけど、運ぶ我々のことを全く考えていない。荷物の再配達でも、不在先から携帯にまで電話される仕組みは本当につらい。運転中でも電話が鳴るので、いつか事故が起こってしまうだろう」（群馬県前橋市内で宅配ドライバー）

TSでインタビュー



愛知県安城トラックステーションでドライバーの声を聞いてみると、福島県から来た50代のドライバー「やっぱり、給大事。前から比べると事が段々減っている。今まで稼げなくなっ稼げなくなっ態。ドライバー年になるが、から比べると減している。不安な部分は事が、あんまりようにしていの会社に行っだろう。妥協をしている部る。経営者が

塩崎さんは「採用当時から大型トレーラの雑貨輸送も行い、手積み手下ろしに抵抗はな

や配車担当者つい塩崎さんしまう」という

（佐

トラガール

トラック輸（清水英フレッシュいま注目の

「ドライあったが、かったのでそんな時、クアイなど両もあるとできた」と

現在、ついている張ってね、やっていて社での支援れるよう、ンジしたい